佐賀県畜産の概要

令 和 ８ 年 １０ 月

佐賀県農林水産部畜産課

さが畜産GO×2プロジェクトとは、

県と農業団体等が一体となって課題解決に取り組み、
さが畜産のロールモデルとなる畜産農家と産地の創出を
目指すプロジェクトです。



目　次

Ⅰ　家畜のライフサイクル　・・・・・・・・　P 1
- 肉用牛・乳用牛のライフサイクル　・・・・・・・・　P 2
- 豚・肉用鶏・採卵鶏のライフサイクル　・・・・・・・・　P 3

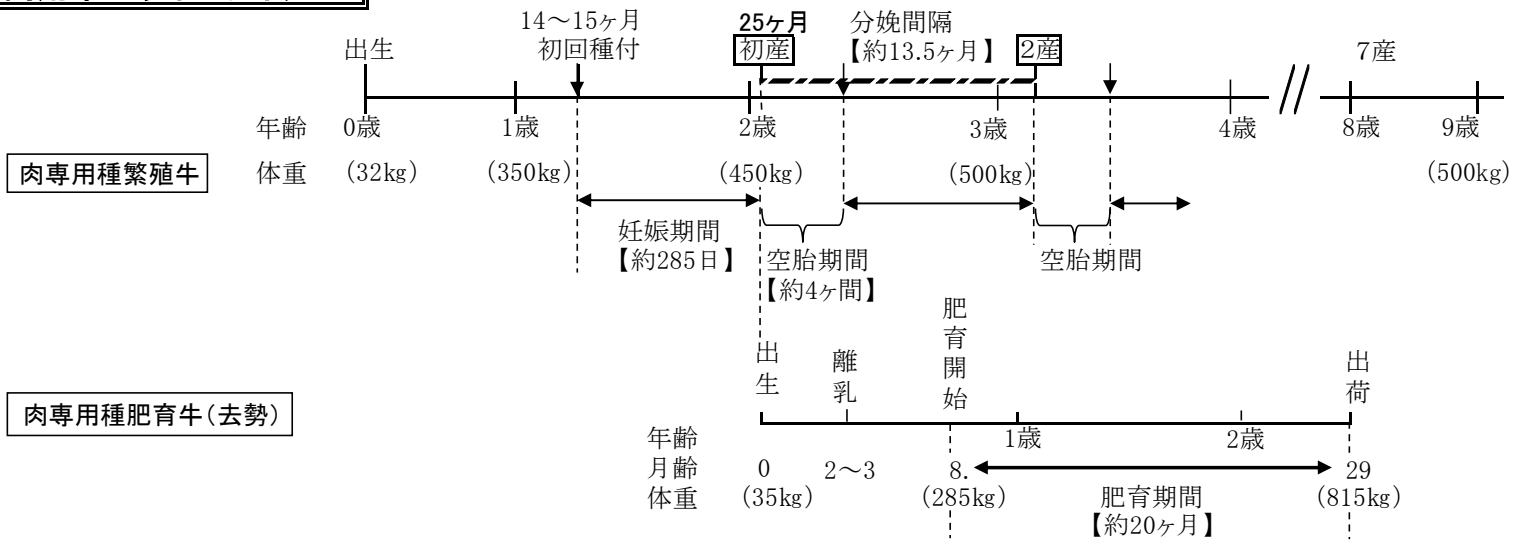
Ⅱ　最近の畜産を巡る情勢　・・・・・・・・　P 4
- 佐賀県における農業産出額の推移　・・・・・・・・　P 5
- 肉用牛　・・・・・・・・　P 6
- 酪農　・・・・・・・・　P10
- 養豚　・・・・・・・・　P12
- 採卵鶏　・・・・・・・・　P14
- ブロイラー　・・・・・・・・　P15
- 飼料、畜産環境保全　・・・・・・・・　P17
- 佐賀県内で飼養されている牛及び豚、鶏一覧　・・・・・・・・　P18

Ⅲ　畜産物の生産・流通状況　・・・・・・・・　P19
- 牛乳（R7）・肉牛流通図（R7）　・・・・・・・・　P20
- 「佐賀牛」の概要　・・・・・・・・　P21
- 肉用牛改良資源施設飼養種雄牛一覧（R8 年 10 月現在）　・・・・・・・・　P23
- 和牛枝肉販売実績表（R4～R7 年度）　・・・・・・・・　P24
- 佐賀牛・佐賀産和牛輸出量推移（H19～R7 年度）　・・・・・・・・　P25
- 「肥前さくらポーク」の概要（生産体系）　・・・・・・・・　P26
- 肉豚・肥前さくらポーク流通図（H21・R7 年度）　・・・・・・・・　P27
- 食料自給率・供給量の推移　・・・・・・・・　P28
- 家計調査　・・・・・・・・　P29

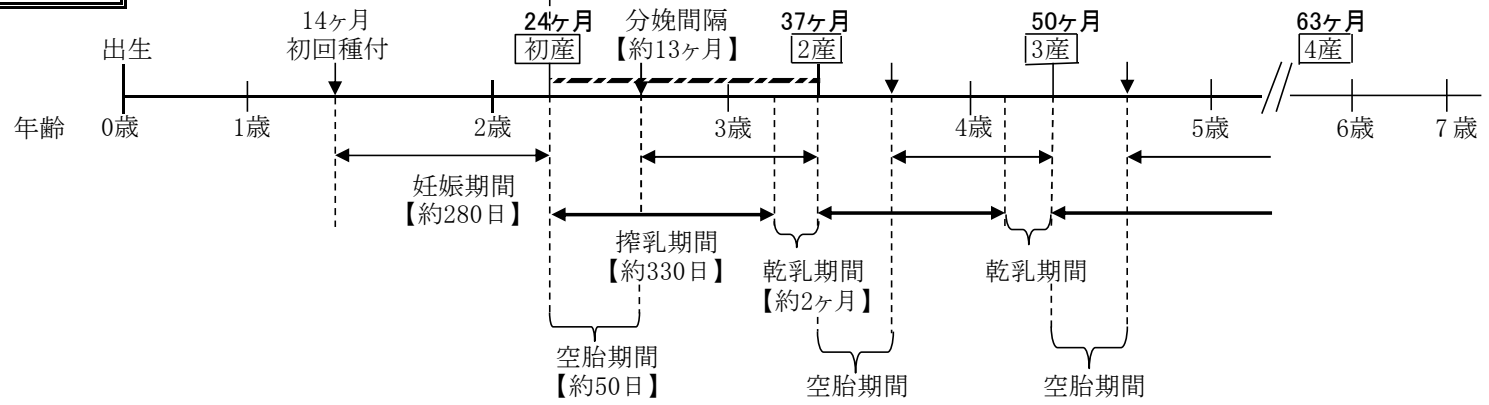
Ⅳ　参考資料　・・・・・・・・　P32
- 配合飼料価格の推移について　・・・・・・・・　P33
- 高病原性鳥インフルエンザ等の解説　・・・・・・・・　P34

Ⅰ　家畜のライフサイクル

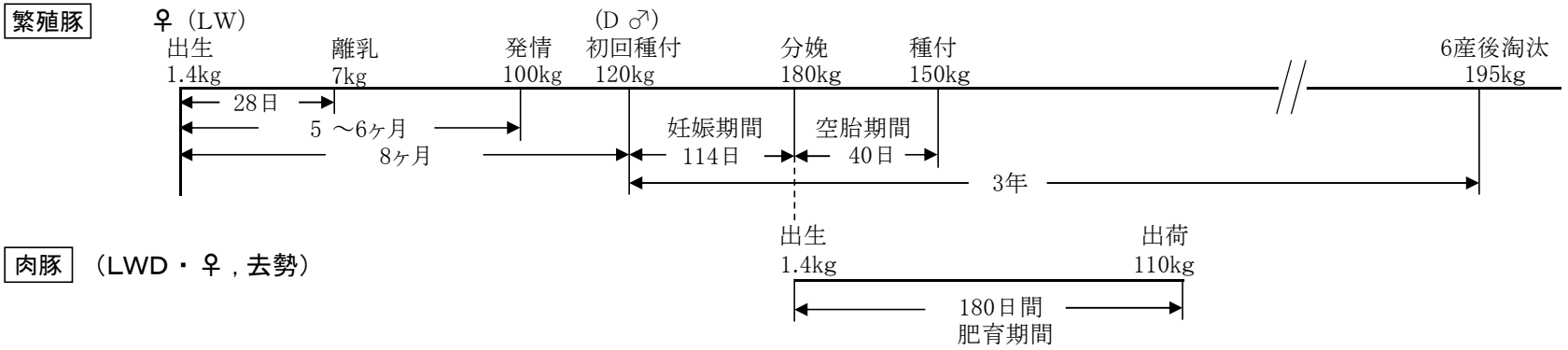
肉用牛のライフサイクル



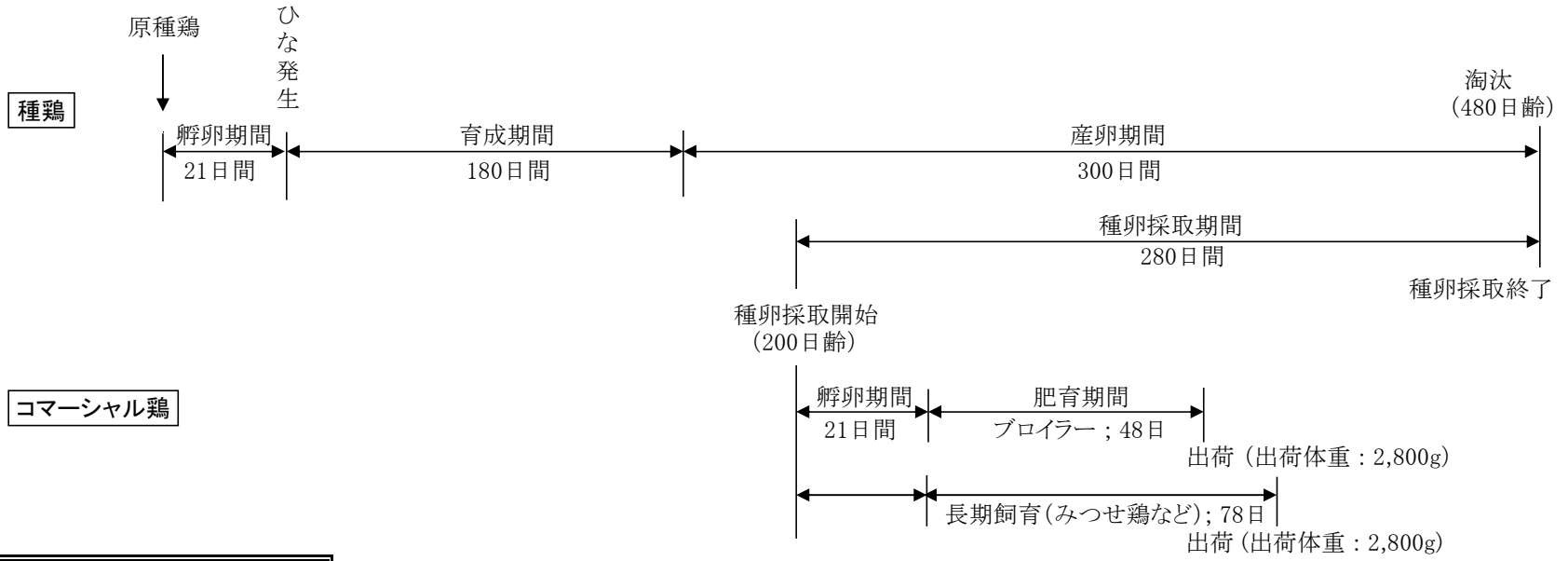
乳用牛のライフサイクル



豚のライフサイクル



肉用鶏のライフサイクル



採卵鶏のライフサイクル



Ⅱ　最近の畜産を巡る情勢

1　佐賀県における農業産出額の推移

○本県畜産部門の産出額は368億円で、農業全体の26.8%を占めている。

○品目別には、肉用牛が188億円でトップ、次いで鶏の105億円、豚の55億円となった。

（単位：億円、%）

区分(年次)	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
農業産出額	1,135 (100.0)	1,219 (100.0)	1,206 (100.0)	1,307 (100.0)	1,284 (100.0)	1,372 (100.0)	120.9
耕種	791	873	845	939	901	999	126.3
畜産	340 (30.0)	342 (28.1)	356 (29.5)	363 (27.8)	378 (29.4)	368 (26.8)	108.2
肉用牛	163 (14.4)	162 (13.3)	181 (15.0)	182 (13.9)	185 (14.4)	188 (13.7)	115.3
乳用牛	18 (1.6)	20 (1.6)	19 (1.6)	18 (1.4)	17 (1.3)	17 (1.2)	94.4
うち生乳	15 (1.3)	17 (1.4)	16 (1.3)	16 (1.2)	15 (1.2)	16 (1.2)	106.7
豚	49 (4.3)	52 (4.3)	51 (4.2)	51 (3.9)	55 (4.3)	55 (4.0)	112.2
鶏	108 (9.5)	105 (8.6)	101 (8.4)	109 (8.3)	118 (9.2)	105 (7.7)	97.2
うち鶏卵	14 (1.2)	12 (1.0)	13 (1.1)	12 (0.9)	16 (1.2)	9 (0.7)	64.3
その他	2 (0.2)	3 (0.2)	3 (0.2)	3 (0.2)	3 (0.2)	2 (0.1)	100.0

資料　農林水産省「農業産出額及び生産農業所得（都道府県別）」（令和8年3月25日公表）

注　農業産出額には、上記以外に加工農産物を含む。

　　各部門の計と内訳は、ラウンドの関係で一致しない場合がある。

2　肉用牛

(1) 飼養戸数及び頭数

○本県肉用牛の飼養戸数は454戸で、5年間で18.1%減少し、飼養頭数は47,700頭で、5年間で9.3%減少した。

○農家１戸当たり飼養頭数は105.1頭/戸で、5年間で10.7%増加した。

【飼養戸数及び頭数】　（単位：戸、頭、頭/戸、%）

区分(年次)		3年	4年	5年	6年	7年	8年	R8年/R3年比
飼養戸数	全国	42,100	40,400	38,600	36,500	34,000	31,800	75.5
	佐賀	554	532	519	508	478	454	81.9
飼養頭数	全国	2,605,000	2,614,000	2,687,000	2,672,000	2,595,000	2,473,000	94.9
	佐賀	52,600	52,800	52,400	52,200	50,800	47,700	90.7
１戸当たり飼養頭数	全国	61.9	64.7	69.6	73.2	76.3	77.8	125.7
	佐賀	94.9	99.2	101.0	102.8	106.3	105.1	110.7

資料　農林水産省「畜産統計」（令和8年2月1日現在、令和8年7月28日公表）

ア　肥育牛飼養及び生産状況　（単位：戸、頭、頭/戸、%）

区分(年次)		3年	4年	5年	6年	7年	8年	R8年/R3年比
肉専用種	飼養戸数*	190	184	189	181	176	165	86.8
	飼養頭数*	36,500	36,600	36,400	36,300	35,200	32,800	89.9
	１戸当たり飼養頭数*	192.1	198.9	192.6	200.6	200.0	198.8	103.5
	出荷頭数**	21,836	21,945	22,494	22,613	22,094	－	－
乳用種	飼養戸数*	25	28	25	29	24	24	96.0
	飼養頭数*	1,130	1,220	1,160	1,270	1,430	1,280	113.3
	１戸当たり飼養頭数*	45.2	43.6	46.4	43.8	59.6	53.3	117.9
	出荷頭数**	792	966	858	836	834	－	－

資料　農林水産省「畜産統計」（令和8年2月1日現在、令和8年7月28日公表）

出荷頭数は、家畜改良センターデータ「と畜頭数」（年度計）

注　＊は年次計、＊＊は年度計。

飼養戸数は延べ戸数。飼養頭数は、肥育農家（一貫農家を含む。）が哺育育成中又は肥育中の頭数。

イ　子取り用めす牛（繁殖牛）飼養及び肥育素牛生産状況　（単位：戸、頭、頭/戸、%）

区分(年次)		3年	4年	5年	6年	7年	8年	R8年/R3年比
肉専用種	繁殖牛飼養戸数*	420	407	398	390	362	344	81.9
	繁殖牛飼養頭数*	9,890	10,000	10,100	9,950	9,640	9,280	93.8
	一戸当たり繁殖牛飼養頭数*	23.5	24.6	25.4	25.5	26.6	27.0	114.9
	出生頭数**	8,298	8,046	8,017	7,650	6,922	―	―
	肥育素牛生産頭数**	6,638	6,436	6,413	6,120	5,538	―	―
	と畜頭数**	21,836	21,945	22,494	22,613	22,094	―	―
	肥育素牛県内自給率**	30.4	29.3	28.5	27.1	25.1	―	―

資料　農林水産省「畜産統計」（令和8年2月1日現在、令和8年7月28日公表）
　　家畜改良センターデータ（出生頭数、と畜頭数）（年度計）
注　＊は年次計、＊＊は年度計。
　　肥育素牛生産頭数、と畜頭数、自給率は肉専用種(黒毛和種)のみの数値。
　　肥育素牛生産頭数は、出生頭数×0.8。

(2) 生産及び価格の動向

○本県の肉用子牛出荷頭数は5,527頭で、5年間で17.8%減少した。
○と畜頭数は22,928頭で、5年間で1.1%減少した。

【肉用子牛出荷頭数及びと畜頭数】　（単位：頭、%）

区分(年次)			2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
肉用子牛出荷頭数		全国	342,798	348,530	360,813	366,887	363,243	343,608	100.2
		佐賀	6,720	6,147	6,206	6,039	5,735	5,527	82.2
と畜頭数		全国	1,051,862	1,055,075	1,087,545	1,104,523	1,115,150	1,094,240	104.0
		佐賀	23,178	22,628	22,911	23,362	23,452	22,928	98.9
	うち黒毛和種	全国	477,761	482,847	489,792	506,677	542,515	554,259	116.0
		佐賀	22,325	21,836	21,945	22,494	22,613	22,094	99.0
	うち乳用種	全国	328,203	325,007	330,560	320,153	306,221	275,864	84.1
		佐賀	349	301	390	286	256	210	60.2
	うち交雑種	全国	228,052	228,798	248,612	260,789	255,660	258,252	113.2
		佐賀	497	491	576	572	580	624	125.6

資料　肉用子牛出荷頭数は農畜産業振興機構HP「肉用子牛取引状況表（中央家畜市場）」（年度計）
　　と畜頭数のうち全国値は農林水産省「畜産物流通統計」（令和8年7月10日公表）（年度計）
　　と畜頭数のうち佐賀県の値は家畜改良センターデータ（年度計）
注　と畜頭数のうち黒毛和種の全国値は、「和牛」の頭数を採用。

【和子牛価格及び牛枝肉卸売価格】　（単位：円/頭、円/kg、%）

区分(年次)		2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
和子牛価格	全国	688,976	755,156	667,824	569,134	538,854	658,936	95.6
	佐賀	654,871	755,831	668,528	566,909	539,957	645,191	98.5
和牛去勢A-5価格（大阪）		2,522	2,767	2,664	2,574	2,492	2,539	100.7
和牛去勢A-4	〃	2,079	2,451	2,340	2,157	2,086	2,183	105.0
乳牛去勢B-3	〃	1,058	1,151	1,881	1,165	775	1,263	119.4
乳牛去勢B-2	〃	1,033	1,057	1,339	829	1,004	1,122	108.6

資料　農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」
大阪市場の価格については農林水産省「畜産物流通統計」（令和8年7月10日公表）

(3) 肉専用種枝肉格付状況の推移（黒毛和種去勢　4・5率）

○本県産牛肉の格付状況は、5年間で4・5率が5.4ポイント増加し、96.8%となった。

（単位：%、ﾎﾟｲﾝﾄ）

区分(年度)		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	R7年－R2年
4　率	全国	36.0	33.4	28.9	27.0	24.4	21.2	-14.8
	佐賀	32.0	28.6	26.4	23.7	23.3	19.2	-12.8
5　率	全国	52.2	56.7	62.7	65.4	70.0	74.5	22.3
	佐賀	59.4	64.0	67.7	70.7	72.0	77.6	18.2
合　計	全国	88.2	90.1	91.6	92.5	94.3	95.7	7.5
	佐賀	91.4	92.5	94.1	94.4	95.4	96.8	5.4

資料　(公社)日本食肉格付協会「牛枝肉格付情報」

(4) 佐賀牛の出荷頭数

○肉質の改良や肥育技術の向上などにより、佐賀牛の発生率は年々向上している。

（単位：頭、%、ﾎﾟｲﾝﾄ）

区分(年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	R7年/R2年比
JAグループ出荷頭数	16,259	16,091	15,987	16,834	16,654	16,387	100.8
佐賀牛の出荷頭数	12,114	12,741	13,116	14,129	14,194	14,475	119.5
佐賀牛の発生率	74.5	79.2	82.0	83.9	85.2	88.3	+13.8

資料　JAグループ佐賀

(5) 収益性の動向

○価格の低迷や飼料価格の高騰等により、所得は大幅に減少している。

【収益性】 （単位：円/頭、%）

区分(年次)		令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年-R1年
繁殖雌牛１頭当たり所得（子牛生産費）	全国	327,905	243,981	260,554	107,460	△ 24,810	△ 41,946	△ 369,851
	九州	295,739	194,949	157,597	93,436	△ 34,406	△ 50,523	△ 346,262
去勢若齢肥育牛１頭当たり所得	全国	70,929	△ 49,813	66,941	7,451	△ 82,579	△ 590	△ 71,519
	九州	38,707	△ 80,520	61,748	△ 10,800	△ 103,572	△ 4,563	△ 43,270
交雑種肥育牛 １頭当たり所得	九州	39,374	△ 104,939	△ 39,864	△ 71,385	△ 60,879	38,958	△ 416
乳用雄肥育牛 １頭当たり所得	九州	△ 11,840	△ 35,635	△ 77,927	△ 149,989	△ 155,779	△ 131,381	△ 119,541

資料　農林水産省「農業経営統計調査　令和6年度畜産物生産費」（令和8年3月27日公表）

(6) 輸入の動向

○牛肉の輸入量は約51万トンで、5年間で14.0%減少した。

○米国、豪州産で総輸入量の約9割を占めており、5年間で米国産は28.2%減少し、豪州産は5年前と同程度である。

【輸入量】 （単位：トン、%）

区分(年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	R7年/R2年比
輸入量	590,992	569,107	562,505	501,898	506,260	508,087	86.0
うちアメリカ	252,705	221,918	232,994	191,802	176,562	181,515	71.8
うちオーストラリア	255,908	228,100	208,016	221,186	241,517	256,009	100.0

資料　農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

3　酪農

(1) 飼養戸数及び頭数

○本県酪農の飼養戸数は27戸で、5年間で32.5%減少し、飼養頭数は1,870頭で、5年間で11.4%減少した。

○農家１戸当たり経産牛飼養頭数は55.2頭/戸で、5年間で34.6%増加した。

【飼養戸数及び頭数等】　（単位：戸、頭、頭/戸、kg/頭、%）

区分(年次)		3年	4年	5年	6年	7年	8年	R8年/R3年比
飼養戸数	全国	13,800	13,300	12,600	11,900	11,300	10,800	78.3
	都府県	8,120	7,740	7,240	6,730	6,350	6,050	74.5
	佐賀	40	39	34	32	28	27	67.5
飼養頭数	全国	1,356,000	1,371,000	1,356,000	1,313,000	1,293,000	1,286,000	94.8
	都府県	525,900	525,100	513,000	491,200	476,200	466,000	88.6
	佐賀	2,110	2,140	1,970	1,830	1,740	1,870	88.6
経産牛飼養頭数	全国	849,300	861,700	836,600	826,200	820,100	807,000	95.0
	都府県	379,000	380,800	366,600	358,200	349,700	340,600	89.9
	佐賀	1,640	1,650	1,540	1,440	1,440	1,490	90.9
未経産牛飼養頭数	全国	445,800	447,200	459,300	423,000	411,600	423,200	94.9
	都府県	120,600	117,200	120,000	105,700	100,000	101,100	83.8
(2歳未満)	佐賀	360	390	340	280	240	320	88.9
１戸当たり経産牛飼養頭数	全国	61.5	64.8	66.4	69.4	72.6	74.7	121.4
	都府県	46.7	49.2	50.6	53.2	55.1	56.3	120.6
	佐賀	41.0	42.3	45.3	45.0	51.4	55.2	134.6
経産牛１頭当たり搾乳量	全国 (注)	8,938	8,941	8,809	8,938	9,118	－	－
	都府県	8,779	8,901	8,690	8,827	8,991	－	－
	佐賀 (注)	8,539	8,512	7,969	8,023	7,888	－	－

資料　農林水産省「畜産統計」（令和8年2月1日現在、令和8年7月28日公表）

農林水産省「牛乳乳製品統計」（令和8年7月28日公表）

注　「経産牛１頭当たり搾乳量」（全国令和7年）：生乳生産量/｛（当年＋次年の経産牛飼養頭数）/2｝*1,000

注　「経産牛１頭当たり搾乳量」（佐賀）：　　生乳生産量/｛（当年＋次年の経産牛飼養頭数）/2｝*1,000

(2) 生産及び価格の動向

○県プール乳価は130円/kgで、5年間で18.2%増加した。

【生乳生産量及び乳製品等の価格】　（単位：t、円/kg、円/25kg、%）

区分（年次）		2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
生乳生産量	全国	7,438,218	7,592,061	7,617,473	7,298,933	7,357,451	7,418,222	99.7
	都府県	3,284,504	3,326,461	3,308,198	3,151,952	3,124,401	3,103,213	94.5
	佐賀	14,346	14,046	13,576	11,874	11,553	11,556	80.6
原料用バター価格		1,407	1,388	1,372	1,537	1,620	1,736	123.4
脱脂粉乳価格（25kg）		17,698	17,598	17,580	19,511	19,611	19,977	112.9
佐賀県プール乳価		110	110	112	124	128	130	118.2

資料　農林水産省「牛乳乳製品統計」（令和8年7月28日公表）

「大口需要者向けの価格動向」（令和8年5月25日公表）

ＪＡグループ佐賀データ（佐賀県プール乳価）

注　バター及び脱脂粉乳価格は年度平均

都府県の生乳生産量は、全国値から北海道値を差し引いた値

(3) 収益性

○搾乳牛１頭当たりの所得は306,779円で、5年間で13.6%増加した。

【収益性】　（単位：円/頭、%）

区分（年次）		令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
搾乳牛通年換算１頭当たり所得	全国	278,479	261,994	211,136	106,546	151,146	252,401	90.6
	九州	270,046	303,314	310,584	238,895	252,987	306,779	113.6

資料　農林水産省「農業経営統計調査　令和6年度畜産物生産費」（令和8年3月27日公表）

4　養豚

(1) 飼養戸数及び頭数の動向

○本県養豚の飼養戸数は26戸で、5年間で25.7%減少し、飼養頭数は74,600頭で、5年間で10.0%減少した。

○農家１戸当たり飼養頭数は2,869頭/戸で、5年間で21.1%増加した。

【飼養戸数及び頭数】　（単位：戸、頭、頭/戸、%）

区分(年次)		3年	4年	5年	6年	8年	R8年/R1年比
飼養戸数	全国	3,850	3,590	3,370	3,130	2,880	74.8
	佐賀	35	34	31	28	26	74.3
飼養頭数	全国	9,290,000	8,949,000	8,956,000	8,798,000	8,756,000	94.3
	佐賀	82,900	82,600	85,400	69,500	74,600	90.0
子取り用めす豚頭数	全国	823,200	789,100	791,800	758,300	743,300	90.3
	佐賀	7,160	6,660	6,470	6,100	6,240	87.2
１戸当たり飼養頭数	全国	2,413	2,493	2,658	2,811	3,040	126.0
	佐賀	2,369	2,429	2,755	2,482	2,869	121.1

資料　農林水産省「畜産統計」（令和8年2月1日現在、令和8年7月28日公表）

注　令和2年及び令和7年は農林業センサス実施年のため調査は休止している。

(2) 生産及び価格の動向

○本県の肉豚と畜頭数は78,203頭で、5年間で25.4%減少した。

○卸売価格は646円/kgで、5年間で14.3%増加した。

【と畜頭数及び枝肉価格】　（単位：頭、円/kg、%）

区分(年次)		2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
と畜頭数	全国	16,689,638	16,835,709	16,577,133	16,406,981	16,259,395	16,064,602	96.3
	佐賀	104,828	103,526	99,795	99,643	97,399	78,203	74.6
卸売価格（東京市場・極上・上）		565	547	589	608	653	646	114.3

資料　農林水産省「畜産物流通統計」（令和8年7月10日公表）

(3) 豚肉の上物率（格付「極上」と「上」の割合）　（単位：%、ポイント）

区分(年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	R7年-R2年
肉豚上物率	61.3	60.8	60.7	62.8	67.3	65.9	4.6

資料　ＪＡグループ佐賀データ

(4) 収益性の動向

○肥育豚１頭当たりの所得は7,526円で、５年間で0.9%減少した。

【収益性】　（単位：円/頭、%）

区分(年次)		令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
肥育豚１頭当たり所得	全国	7,596	9,712	4,533	1,160	1,807	5,675	74.7
	九州	7,592	10,302	4,993	1,080	1,629	7,526	99.1

資料　農林水産省「農業経営統計調査　令和6年度畜産物生産費」（令和8年3月27日公表）

(5) 輸入の動向

○豚肉の輸入量は約94万トンで、5年間で6.9%増加した。

【輸入量】　（単位：トン、%）

区分(年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	R7年/R2年比
輸入量	883,985	928,994	965,146	914,512	983,276	944,787	106.9
うちアメリカ	250,265	249,078	226,712	224,745	219,789	207,138	82.8
うちカナダ	235,430	226,213	208,376	221,052	243,486	273,738	116.3
うちスペイン	98,995	136,233	189,502	164,138	178,370	145,534	147.0
うちデンマーク	74,269	81,367	84,612	55,633	54,767	35,313	47.5

資料　農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

5　採卵鶏

(1) 飼養戸数及び羽数の動向

○本県採卵鶏の飼養戸数は21戸で、5年間で19.2%減少し、飼養羽数は254千羽で、5年間で20.4%減少した。

○農家１戸当たり飼養羽数は12.1千羽/戸で、5年間で1.6%減少した。

【飼養戸数及び飼養羽数】　（単位：戸、千羽、千羽/戸、%）

区分(年次)		3年	4年	5年	6年	8年	R8年/R3年比
飼養戸数	全国	1,960	1,880	1,760	1,700	1,570	80.1
	佐賀	26	24	24	24	21	80.8
飼養羽数	全国	183,373	182,661	172,265	168,599	177,263	96.7
	佐賀	319	267	200	251	254	79.6
成鶏めす飼養羽数	全国	140,697	137,291	128,579	129,729	138,602	98.5
	佐賀	283	230	184	233	240	84.8
１戸当たり飼養羽数	全国	93.6	97.2	97.9	99.2	112.9	120.6
	佐賀	12.3	11.1	8.3	10.5	12.1	98.4

資料　農林水産省「畜産統計」（令和8年2月1日現在、令和8年7月28日公表）

注　成鶏めすの飼養羽数が1,000羽以上の農家を計上している。

（ひなのみ及び種鶏で、それぞれ1,000羽以上使用する農家を含む。）

令和2年及び令和7年は農林業センサス実施年のため調査は休止している。

(2) 生産及び価格の動向

○本県の鶏卵生産量は4,261トンで、5年間で32.3%減少した。

【出荷量及び価格】　（単位：トン、円/kg、%）

区分(年次)		2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
生産量	全国	2,632,882	2,574,255	2,585,987	2,426,940	2,480,663	2,453,409	93.2
	佐賀	6,290	5,415	4,768	4,914	3,501	4,261	67.7
卸売価格(東京・全農M・税抜)		170	215	251	276	254	328	192.9

資料　農林水産省「鶏卵流通統計」（令和8年7月10日公表）

農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

注　卸売価格については「年度平均」。

6　ブロイラー

(1) 飼養戸数及び羽数の動向

○本県ブロイラーの飼養戸数は59戸で、5年間で7.8%減少し、飼養羽数は3,611千羽で、3.7%減少した。

○農家１戸当たり飼養羽数は61.2千羽/戸で、5年間で4.4%増加した。

【飼養戸数及び飼養羽数】　（単位：戸、千羽、千羽/戸、%）

区分(年次)		3年	4年	5年	6年	8年	R8年/R3年比
飼養戸数	全国	2,160	2,100	2,100	2,050	1,960	90.7
	佐賀	64	63	62	62	59	92.2
飼養羽数	全国	139,658	139,230	141,463	144,859	139,599	100.0
	佐賀	3,751	3,637	3,949	3,929	3,611	96.3
１戸当たり飼養羽数	全国	64.7	66.3	67.4	70.7	71.2	110.0
	佐賀	58.6	57.7	63.7	63.4	61.2	104.4

資料　農林水産省「畜産統計」（令和8年2月1日現在、令和8年7月28日公表）

注　年間出荷羽数が3,000羽以上の農家を計上している。

注　令和2年及び令和7年は農林業センサス実施年のため調査は休止している。

(2) 生産及び価格の動向

○本県のブロイラー出荷羽数は16,286千羽で、5年間で5.8%減少した。

【出荷戸数・羽数及び価格】　（単位：千羽、円/kg、%）

区分(年次)		3年	4年	5年	6年	8年	R8年/R3年比
出荷羽数	全国	713,782	719,259	720,878	731,847	740,539	103.7
	佐賀	17,292	16,440	17,863	17,366	16,286	94.2
卸売価格（東京市場・もも）		636	713	720	690	806	126.7

資料　農林水産省「畜産統計」（令和8年2月1日現在、令和8年7月28日公表）

令和2年及び令和7年は農林業センサス実施年のため調査は休止している。

農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

注　卸売価格については「年度平均」。

(3) 輸入の動向

○ブロイラーの輸入量は約59万トンで、5年間で6.8%増加した。

○ブラジル、タイ産で総輸入量の98.8%を占めており、5年間でタイ産が大幅に増加している。

【輸入量】 (単位：トン、%)

区分(年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	R7年/R2年比
輸入量	552,832	594,223	565,043	608,569	618,755	590,339	106.8
うち中国	－	－	－	－	－	－	－
うちアメリカ	12,323	15,908	10,994	12,321	8,567	6,678	54.2
うちタイ	133,362	135,335	140,413	173,026	180,151	180,532	135.4
うちブラジル	404,647	440,458	411,641	422,517	429,383	402,773	99.5

資料　農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

7　飼料

【飼料作物作付面積】　（単位：ha、％）

区分(年次)		2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
飼料作物作付面積	全国	955,700	1,001,000	1,026,000	1,018,000	975,500	905,200	94.7
	佐賀	3,460	3,780	4,180	4,420	－	－	－

資料　農林水産省「作物統計　作況調査」（令和8年8月28日公表）
令和6年及び令和7年は主産県を調査の範囲としており佐賀県の面積は調査されていない。
令和7年の全国面積は、令和5年産の調査結果を基に推計したもの。

○配合飼料価格は、95,547円/トンで、5年間で41.4％増加した。

【配合飼料価格】　（単位：円/トン、％）

区分(年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	R7年/R2年比
配合飼料価格（工場渡し価格）	67,556	80,485	97,544	97,531	95,191	95,547	141.4

資料 農林水産省生産局畜産部飼料課編 公益社団法人配合飼料供給安定機構発行「飼料月報」（令和8年8月28日公表）

8　畜産環境保全

○家畜排せつ物法適用農家は、平成17年から全戸適正な処理を実施している。

【県内家畜ふん尿適正処理戸数（法適用農家）】　（単位：戸、％）

区分(年度)	29年度	30年度	令和元年度	3年度	4年度	5年度	R5年/H29年比
畜産農家戸数	690	611	609	614	595	577	83.6
適正処理戸数	690	611	609	614	595	577	83.6
適正処理割合	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	－

資料　「家畜保健衛生所調査」及び「家畜排せつ物法施行状況等調査」
注　令和2年度、令和6年度及び令和7年度は調査していない。

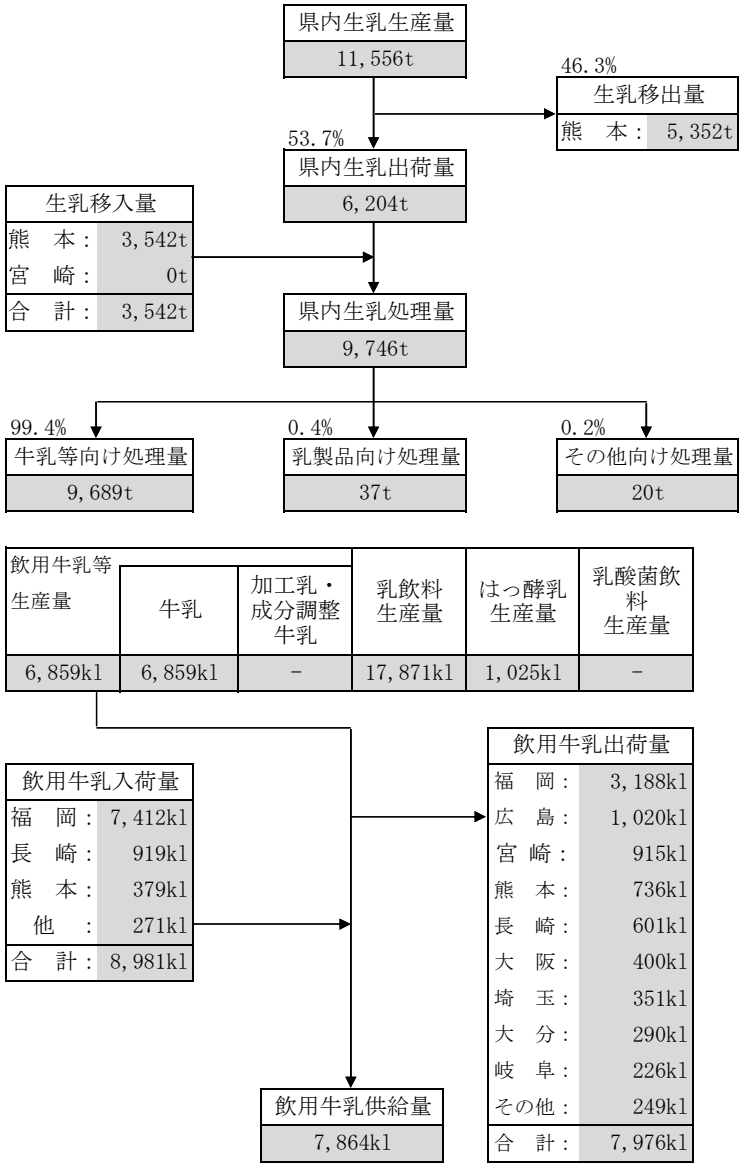
佐賀県内で飼養されている牛及び豚、鶏一覧

農林	市町	乳用種		肉用牛※									牛総計		豚		採卵鶏		肉用鶏		エミュー		だちょう		うずら		あひる		その他	
				肥育牛				繁殖牛																						
				黒毛和種等		乳用雄牛及び交雑種		繁殖牛計		成牛	育成	子牛																		
		農場数	頭数	農場数	頭数	農場数	頭数	農場数	頭数	頭数	頭数	頭数	のべ農場数	頭数	農場数	頭数	農場数	羽数（成鶏）	農場数	羽数	農場数	羽数	農場数	羽数	農場数	羽数	農場数	羽数	農場数	羽数
佐賀中部	佐賀市	4	65	4	495	×	×	17	643	468	40	135	25	1,203	7	15,816	21	57,720	5	206,600					×	×	×	×		
	多久市	×	×	11	1,845			13	421	293	15	113	24	2,266	×	×	6	39,453	×	×										
	小城市	×	×	10	1,061			10	464	340	23	101	20	1,525	×	×	6	76									×	×		
東部	鳥栖市							×	×	27	3	17	0	0	×	×	4	2,606	×	×					×	×				
	神埼市	3	461	×	×			×	×	29			3	461			5	1,993	×	×							×	×		
	吉野ヶ里町	×	×										0	0			×	×												
	基山町	×	×	×	×			×	×	6		5	0	0			×	×			×	×								
	上峰町			6	308								6	308	×	×														
	みやき町	×	×	×	×	×	×						0	0	×	×	3	18							×	×				
唐津	唐津市	5	240	43	10,718	5	271	123	4,910	3,069	393	1,448	176	16,139	11	19,425	12	95,237	18	1,107,561	×	×			×	×				
	玄海町	4	251	19	5,206	×	×	22	1,529	1,135	100	294	45	6,986	×	×														
伊万里	伊万里市			39	7,396	4	335	29	701	475	99	127	72	8,432	×	×	14	6,261	13	610,555					×	×	×	×		
	有田町			12	854	×	×	5	123	93	22	8	17	977	×	×	×	×	13	459,300										
杵藤	武雄市	×	×	20	1,175	×	×	48	1,461	790	227	444	68	2,636	6	9,012	11	20,618	3	255,000			×	×			×	×		
	大町町																×	×												
	江北町			×	×			×	×	23	7	13	0	0			3	59,998												
	白石町			21	2,115	5	311	27	1,458	971	101	386	53	3,884	×	×	9	13,129			×	×			×	×	×	×	×	×
	鹿島市	×	×	15	1,649	3	185	22	958	657	117	184	40	2,792	×	×	×	×	×	×										
	嬉野市	×	×	6	141			11	211	129	7	75	17	352	×	×	4	4,092	7	121,200										
	太良町	×	×	7	761			20	782	493	64	225	27	1,543	8	16,907	×	×	14	873,500										
総計		28	1,763	219	34,397	23	1,354	352	13,791	8,998	1,218	3,575	622	51,305	46	68,842	107	364,520	78	3,819,017	8	680	×	×	8	82	8	116	×	×

資料：「家畜保健衛生所調査」（令和8年2月現在）
※ 肉用牛肥育の黒毛和種、乳用雄、交雑および繁殖牛の戸数はそれぞれで計上
※ 飼養者が複数の農場を持っている場合はそれぞれで計上
※ 愛玩動物を含む

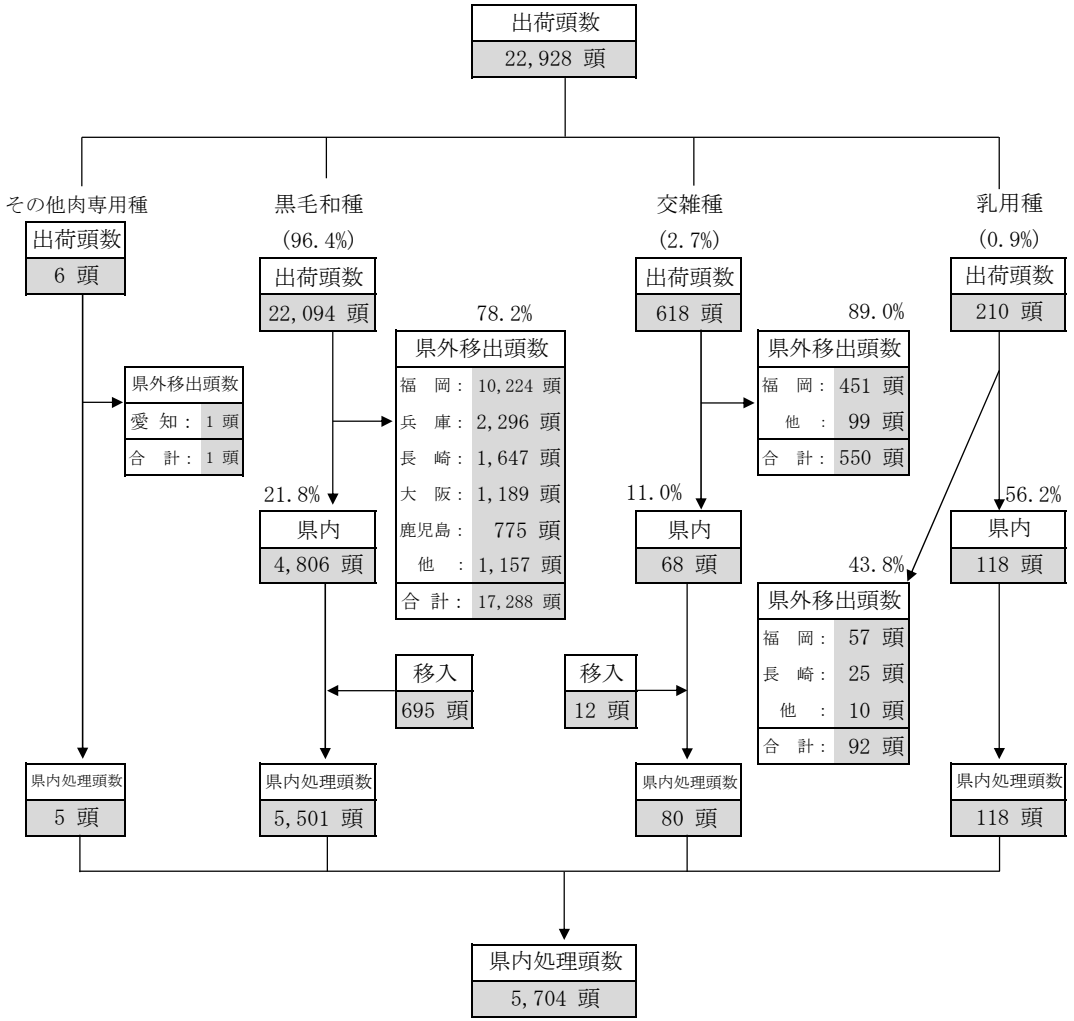
Ⅲ　畜産物の生産・流通状況

○　牛乳流通図（令和７年）



（資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」）

○　肉牛流通図（令和７年度）



（資料：家畜改良センター（と畜頭数））

「佐賀牛」の概要

1　「佐賀牛」とは

「佐賀牛」とは、ＪＡさがが定める基準に適合した牛肉で、その基準は次のとおり。

ＪＡグループ佐賀管内で肥育した黒毛和牛で、(社)日本食肉格付協会が定める牛枝肉取引規格の格付けで、
『肉質等級が４等級以上、かつ脂肪交雑のＢＭＳ値が７以上のもの』
(佐賀牛のブランド力向上のため、平成１６年にＢＭＳ値８以上から７以上に拡大)

2　佐賀牛の歴史【佐賀牛の基準】

(1)　昭和３６年より県産牛を関西市場へ出荷開始。
(2)　５０年代後半、肉質がよいことに注目され始める。
(3)　５９年から県経済連が、佐賀牛と表示して出荷。（歩留等級や肉質等級は問わず、全てを佐賀牛として販売。出荷先は、大阪、神戸、京都等。）
(4)　６２年度、Ａ－５、Ｂ－５等級格付の「佐賀牛」を佐賀特選ブランドに選定し、６３年度から佐賀牛のシールとともに佐賀特選ブランドシールを貼付して販売。
(5)　平成２年８月に県内での「佐賀牛」取扱指定店の拡大と適正な表示販売を促進するため佐賀牛販売促進協議会が発足。
(6)　ＪＡグループ佐賀では「佐賀牛」の量の確保とブランド力を高めるため、平成１６年１月から定義基準を肉質等級５等級又は４等級のもので脂肪交雑のＢＭＳ値が№.７以上までに拡大。
(7)　佐賀牛販売促進協議会においても県内の「佐賀牛」として販売できる牛肉の基準を拡大。
(8)　平成１９年から「佐賀牛」香港輸出開始。

3　佐賀牛の取扱指定店制度

ＪＡさがが、販売店からの申請に基づき、「佐賀牛取扱店舗指定店要領」の要件を満たす場合に「佐賀牛取扱店」に指定。（昭和６３年４月～制度開始）

「佐賀牛」を取り扱う販売店（小売店）の指定状況は下記のとおり。

(1)　国内
１，１１３店舗（令和８年６月末現在）

(2)　海外
１５０店舗（令和８年３月末現在）
（香港３１、シンガポール２９、タイ２０、フィリピン２１、マカオ２２、台湾１６、アメリカ８、その他３）

4　県産和牛出荷頭数及び４・５率の変遷等

年度	県産和牛出荷頭数（頭）	繁殖雌牛飼養頭数（頭）	子牛取引頭数（頭）	和牛枝肉平均単価（円/kg）	肉質４，５等級率		佐賀牛出荷頭数（頭）
					佐賀県（%）	全国（%）	
H 17	24,690	9,820	6,151	1,998	59.9	54.8	4,792
H 18	24,886	9,470	6,307	2,001	61.8	55.5	4,742
H 19	25,023	10,200	6,236	1,926	58.7	56.5	4,830
H 20	26,338	11,200	6,898	1,735	61.5	59.0	5,884
H 21	27,158	11,700	7,344	1,616	62.1	58.3	6,137
H 22	27,164	11,500	7,507	1,590	62.8	57.2	6,211
H 23	28,075	11,100	7,207	1,590	63.8	58.8	6,668
H 24	27,307	10,100	6,796	1,698	67.5	63.0	7,221
H 25	26,933	9,540	6,591	1,847	65.2	58.1	7,905
H 26	25,739	9,400	6,317	1,956	77.9	73.5	9,090
H 27	24,060	9,080	6,149	2,345	81.6	78.0	9,452
H 28	23,132	9,070	6,174	2,540	82.5	80.3	9,352
H 29	22,690	9,230	6,440	2,416	84.5	82.1	9,702
H 30	22,452	9,190	6,557	2,466	86.9	83.7	10,224
R 1	22,456	10,100	6,562	2,336	87.8	86.5	11,099
R 2	22,325	9,710	6,774	2,215	91.4	88.2	12,114
R 3	21,836	9,890	6,593	2,467	92.5	90.1	12,741
R 4	21,945	10,000	6,770	2,397	94.1	91.6	13,116
R 5	22,494	10,100	6,673	2,287	94.4	92.5	14,129
R 6	22,613	9,950	6,256	2,309	95.4	94.3	14,194
R 7	22,094	9,640	5,983	2,372	96.8	95.7	14,475

資料：出荷頭数：「食肉流通統計」、H22 から「家畜改良センターと畜頭数データ」
飼養頭数：「畜産統計」、子牛取引頭数：佐賀県農協調査、和牛枝肉平均単価：JA グループ佐賀
格付状況：（社）日本食肉格付協会（去勢のみ）

注１：佐賀県の格付状況は、全出荷先が対象。
２：格付状況の本県と全国の比較は、平成 14 年度までは、5 率（本県：県経済連調査、全国：（社）日本食肉格付協会（去勢のみ））で比較したが、平成 15 年度以降、4,5 率の比較（本県、全国：（社）日本食肉格付協会（去勢のみ））に変更。
３：「佐賀牛」出荷頭数　平成 15 年度までは５率以上、平成 16 年度からはＢＭＳ7 以上

５　「佐賀牛」生産の課題

(1)　肥育素牛県内自給率の向上

「佐賀牛」の素となる肥育素牛については、依然として約７割を県外からの導入に頼っているため、肥育素牛の生産拡大を図る必要がある。

＜現状＞

飼料価格等の高騰、R6 年度の子牛価格の低迷、農家の高齢化等に伴う戸数の減少などにより、繁殖母牛頭数は減少に転じている。

一方、現在は、子牛価格が一時期の低迷を脱し高値となっており、規模拡大を検討する農家が増え始めていることから、生産基盤の強化を図るチャンスとなっている。

＜主な取組＞

・優良な繁殖雌牛の導入や牛舎等の施設整備の推進
・繁殖農家の規模拡大等の取組推進
・肥育素牛の生産拠点の整備推進

＜肥育素牛県内自給率＞

・目標（2032 年）：34.5%（※佐賀県「食」と「農」の振興計画 2023）
・現況（2025 年）：25.1%

(2)　優良な種雄牛の確保

枝肉重量や肉質の向上を図り、銘柄「佐賀牛」の一層の生産拡大を推進するため、産肉能力の高い本県独自の種雄牛を造成する必要がある。

＜これまでの主な経緯など＞

・平成８年度に畜産試験場において肉用牛改良資源施設を運営し、種雄牛の造成を開始。
・種雄牛造成では、優秀な雄牛と雌牛から候補種雄牛を生産・選抜し、その候補種雄牛の産子の肥育結果（枝肉成績）により産肉能力を評価している。候補種雄牛を選抜する際、これまでは主に本牛の発育状況により選抜していたが、選抜の精度を高めるため、本県では平成 30 年度から、本牛のゲノム育種価（産肉性の遺伝的能力を数値化したもの）を活用し、基準をクリアーした候補種雄を選抜することとした。
・ゲノム育種価を活用して造成した最初の牛である「二尺玉」は、枝肉重量や脂肪交雑などが非常に優れることから、令和７年に種雄牛に認定され、生産者からの評価が高く利用が進んでいる。また、２頭目の牛である「美智久」は、枝肉重量、ロース芯面積、脂肪交雑などの枝肉形質のトータルバランスに優れ、また、良食味にもつながる一価不飽和脂肪酸の割合も高いことから、令和 8 年 6 月に種雄牛に認定され、今後の利用が期待されている。

＜参考＞

現在飼養中の認定種雄牛（４頭）

「豊晴福（とよはれふく）」　「美津秀吉（みつひでよし）」　「二尺玉（にしゃくだま）」　「美智久（みちひさ）」

佐賀県肉用牛改良資源施設飼養　種雄牛一覧

令和8年10月1日現在（育種価評価 令和8年4月）

区分	種雄牛名	父	母方祖父	母方曾祖父	４代祖	５代祖	生年月日	産地・育種価・検定成績
選抜	豊晴福（トヨハレフク）	豊茂国	平茂晴	福之国	安平	糸福（大分）	H27.10.25	産地:玄海町　育種価：HAADBB(188頭) 直検:DG=1.28　現検:枝重536.1kg、BMS9.6（R3.5月選抜）
	美津秀吉（ミツヒデヨシ）	美津照重	勝忠平	福栄	糸晴（佐賀）	糸波	H30.11.28	産地:白石町　育種価：BBADCH(37頭) 直検:DG=1.36　現検:枝重547.7kg、BMS10.6（R6.5月選抜）
	二尺玉（ニシャクダマ）	直太郎	勝忠平	安福久	百合茂	平茂勝	R元.8.11	産地:嬉野市　育種価：HHHHHH(43頭) 直検:DG=1.38　現検:枝重525.7kg、BMS10.7（R7.5月選抜）
	美智久（ミチヒサ）	美国桜	耕富士	安福久	平茂勝	安平	R2.5.30	産地:鹿島市　育種価：BABAAA(55頭) 直検:DG=1.20　現検:枝重　kg、BMS　（R8.6月選抜）
検定中〔待機〕	美国85乃3（ミクニ）	美国桜	白鵬85の3	百合白清２	勝安波	安平	R2.11.29	産地:伊万里市 直検:DG=1.14　R9.5月選抜予定
	九八（キュウハチ）	福之姫	百合茂	安福久	勝忠平	第５隼福	R3.9.8	産地:唐津市 直検:DG=1.04　R10.5月選抜予定
	姫孝千（ヒメコウセン）	福之姫	安亀忠	安福久	平茂晴	平茂勝	R4.10.16	産地:玄海町　（旧名：福之福） 直検:DG=0.89　R10.5月選抜予定
	零魅幸（レミサチ）	勝乃幸	零実緒	平茂晴	勝忠平	安福165の9	R5.2.8	産地：玄海町 直検：DG=1.21　R11.5月選抜予定
直接検定牛	美津佳（ミツヨシ）	北美津久	美国桜	百合茂	安福久	平茂勝	R6.5.3	産地：玄海町 直検：DG=0.79
	北郎（キタロウ）	北美津久	白鵬85の3	安福久	平茂勝	飛騨白清	R6.5.5	産地：唐津市 直検：DG=0.78
	暁姫輝桜（アキヒメテルサクラ）	暁之藤	福之姫	美津照重	美国桜	勝忠平	R7.10.26	産地：玄海町 直検:令和8年4月開始
検定予定	第30期　人工授精による作出（R7.4～人工授精開始）							
	第31期　人工授精による作出（R8.4～人工授精開始）							
全農種雄牛	満天太郎（マンテンタロウ）	金太郎３	百合茂	安福久	平茂勝	忠福	H29.5.29	産地:北海道 H31.3月搬入
	北桜丸（ホクオウマル）	勝早桜５	安福久	勝忠平	第5隼福	金徳	H31.1.13	産地:北海道 R2.3月搬入
	北福峰（キタフクホウ）	紀多福	白鵬85の3	美津照重	百合茂	美津福	R3.4.19	産地:北海道 R4.3月搬入
	北萬徳（キタマントク）	紀多福	満天白清	耕富士	福之国	百合茂	R4.7.21	産地：北海道 R5.5月搬入
	千代萬徳（チヨマントク）	北美津久	満天白清	耕富士	福之国	百合茂	R5.6.19	産地：北海道 R6.5月搬入
団事連携	貴白清２（タカシラキヨ）	貴隼桜	百合白清２	平茂晴	安福久	平茂勝	R4.9.11	産地:唐津市 直検:DG=1.23　E黒053・R6前期調整交配（令和7年2月26日譲渡）

○ 和牛枝肉販売実績表（JAグループさが）

販売先		令和4年度								令和5年度							
		頭数（頭）	シェア（%）	枝肉重量（kg）	平均単価（円）	販売金額（円）	5率（%）	佐賀牛（BMS7以上）	佐賀牛率（%）	頭数（頭）	シェア（%）	枝肉重量（kg）	平均単価（円）	販売金額（円）	5率（%）	佐賀牛（BMS7以上）	佐賀牛率（%）
関西	南港	1,198	7.49	513.5	2,430	1,247,796	64.8	1,000	83.5%	1,324	7.87	510.9	2,363	1,207,023	76.0	1,189	89.8%
	神戸	1,235	7.73	462.5	2,418	1,118,407	70.0	1,116	90.4%	1,197	7.11	468.7	2,332	1,092,854	75.7	1,108	92.6%
	西宮	698	4.37	492.2	2,335	1,149,063	52.9	511	73.2%	838	4.98	496.8	2,261	1,123,267	55.5	617	73.6%
	京都																
	姫路	251	1.57	529.6	2,575	1,363,696	84.5	247	98.4%	323	1.92	517.6	2,441	1,263,648	87.9	313	96.9%
関東	東京	625	3.91	491.4	2,353	1,156,378	67.4	518	82.9%	625	3.71	487.5	2,308	1,125,210	74.4	532	85.1%
九州	畜産公社	2,243	14.03	482.2	2,333	1,125,070	62.9	1,402	62.5%	2,806	16.67	481.2	2,217	1,066,637	67.4	2,283	81.4%
	二日市	4,371	27.34	487.0	2,398	1,167,640	63.3	3,526	80.7%	4,505	26.76	488.5	2,278	1,112,643	63.7	3,597	79.8%
	福岡	4,527	28.32	503.8	2,462	1,240,110	65.3	3,885	85.8%	4,389	26.07	500.0	2,355	1,177,542	68.9	3,844	87.6%
	佐世保	114	0.71	423.2	2,291	969,354	51.8	76	66.7%	106	0.63	423.2	2,286	967,421	63.2	81	76.4%
	ナンチク	719	4.50	515.9	2,398	1,237,407	53.4	495	68.8%	721	4.28	519.4	2,403	1,248,264	63.8	565	78.4%
	その他	6	0.04														
合計		15,987	100	493.1	2,411	1,188,679	64.0	13,116	82.0%	16,834	100	492.5	2,308	1,136,698	68.0	14,129	83.9%

販売先		令和6年度								令和7年度							
		頭数（頭）	シェア（%）	枝肉重量（kg）	平均単価（円）	販売金額（円）	5率（%）	佐賀牛（BMS7以上）	佐賀牛率（%）	頭数（頭）	シェア（%）	枝肉重量（kg）	平均単価（円）	販売金額（円）	5率（%）	佐賀牛（BMS7以上）	佐賀牛率（%）
関西	南港	1,222	7.46	508.5	2,347	1,193,433	80.0	1,112	91.0%	1,188	7.25	511.5	2,372	1,213,356	79.6	1,067	89.8%
	神戸	1,231	7.51	470.2	2,378	1,118,348	81.0	1,125	91.4%	1,100	6.71	475.8	2,419	1,150,719	81.4	1,011	91.9%
	西宮	863	5.27	497.5	2,273	1,131,013	59.3	678	78.6%	834	5.09	497.6	2,383	1,185,716	73.6	745	89.3%
	京都	3	0.02	546.4	2,493	1,361,802	100.0	0	0.0%	3	0.02	504.1	2,466	1,243,202	100.0	3	100.0%
	姫路	323	1.97	514.7	2,428	1,249,836	95.4	316	97.8%	312	1.90	510.8	2,418	1,234,846	95.2	307	98.4%
関東	東京	613	3.74	481.1	2,259	1,086,746	74.4	563	91.8%	624	3.81	481.7	2,326	1,120,274	77.1	550	88.1%
九州	畜産公社	2,659	16.23	477.6	2,204	1,052,286	71.3	2,179	81.9%	2,842	17.34	488.1	2,296	1,120,421	79.3	2,517	88.6%
	二日市	4,294	26.20	491.3	2,274	1,117,204	67.0	3,495	81.4%	4,223	25.77	496.6	2,365	1,174,256	73.1	3,578	84.7%
	福岡	4,580	27.95	499.2	2,359	1,177,542	69.0	4,000	87.3%	4,530	27.64	500.1	2,403	1,201,714	74.6	4,057	89.6%
	佐世保	114	0.70	429.5	2,225	955,620	60.5	80	70.2%	107	0.65	440.3	2,306	1,015,419	72.0	85	79.4%
	ナンチク	707	4.31	522.0	2,422	1,264,555	73.3	601	85.0%	576	3.51	527.8	2,459	1,297,994	80.0	512	88.9%
	その他	45	0.27	523.1	2,413	1,262,496	84.4	45	100.0%	48	0.29	508.1	2,494	1,266,864	79.2	43	89.6%
合計		16,654	102	496.8	2,340	1,164,240	76.3	14,194	85.2%	16,387	100	495.2	2,392	1,185,398	80.4	14,475	88.3%

※価格は税抜き

※JAさがから資料提供。

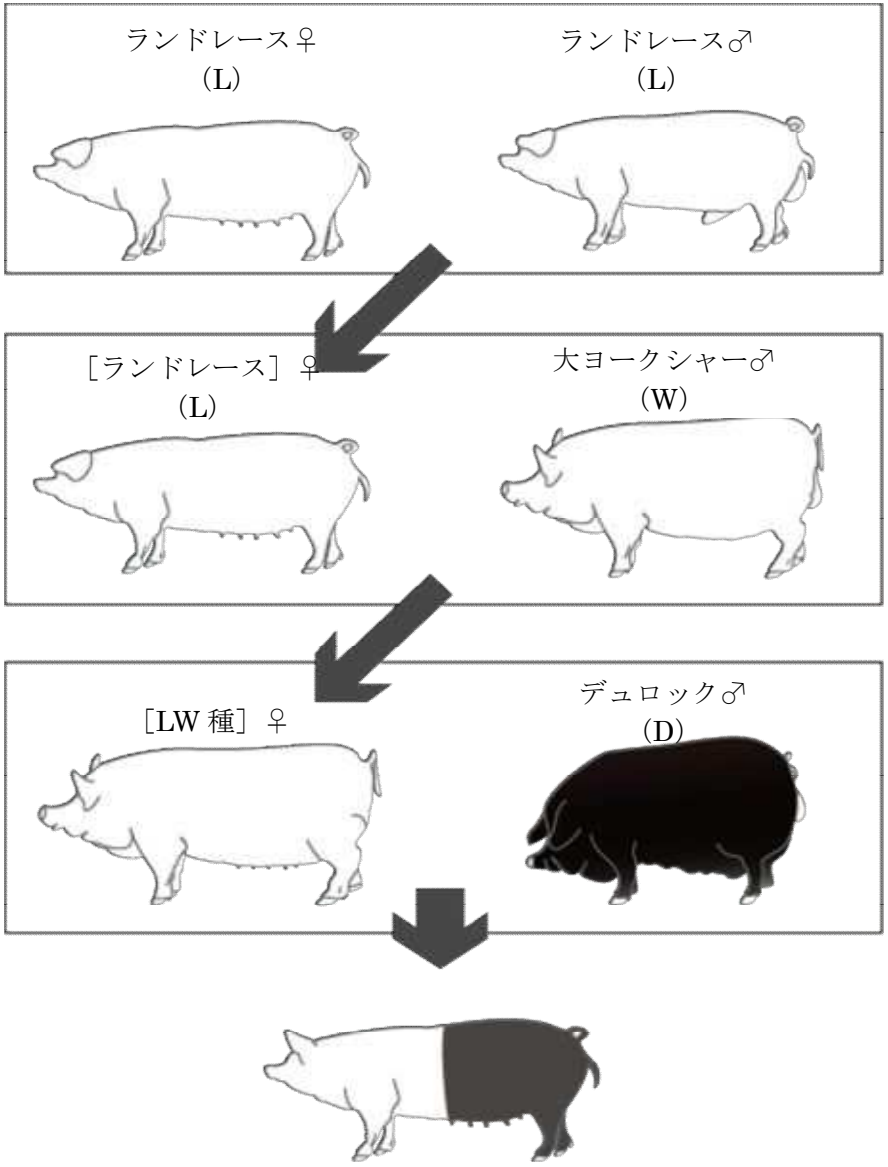
「佐賀牛」「佐賀産和牛」の輸出量推移

年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
輸出量 （t）	10.2	16.8	16.4	22.4	24.1	27.3	36.5	43.3	46.2	53.6	57.2	68.9

年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
輸出量 （t）	63.7	67.3	63.6	67.9	84.9	94.8	145.6

※佐賀県農林水産物等輸出促進協議会調べ（R6年度以降は佐賀県高性能食肉センター（KAKEHASHI）と畜分含む）

○「肥前さくらポーク」の概要　～佐賀県産銘柄肉豚の生産体系～



銘柄肉豚（三元肉豚・・・LWD）

特　徴

・限定農家から生産され、生産地が明確。
・安全性を基本とした専用飼料により生産。
・豚肉独特の臭みが少なく、肉のキメが細かく、軟らかい。
・肉色は鮮やかなさくら色。

技術

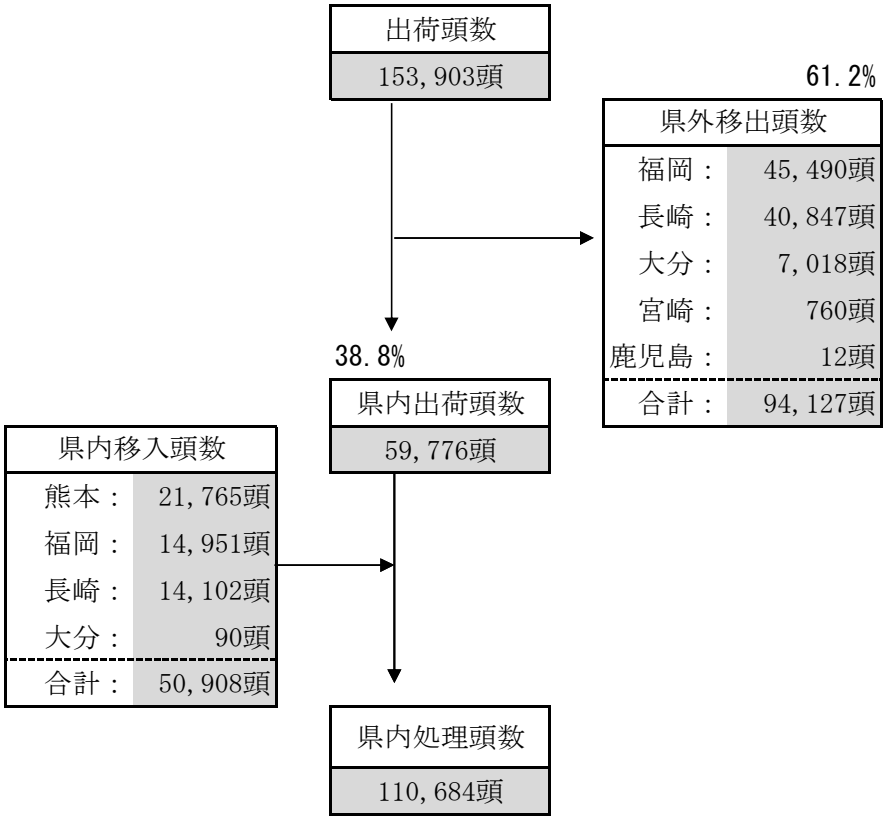
・この品質の良さは、なにより農家の生産技術の高さにあり、佐賀県における「上物」の割合はおおむね 65.9%となっています。
・成長に合わせて JA 養豚用飼料を給与し、豚自体が持つ消化吸収や抗病性を高め健康な発育を促し、さらに肉質や脂質の向上を図っている。

年　度	R 元年	R2 年	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年	R7 年
出荷頭数	18,770	20,390	16,721	17,875	13,925	17,596	17,591

（資料：ＪＡさが調査 R8.6 現在）

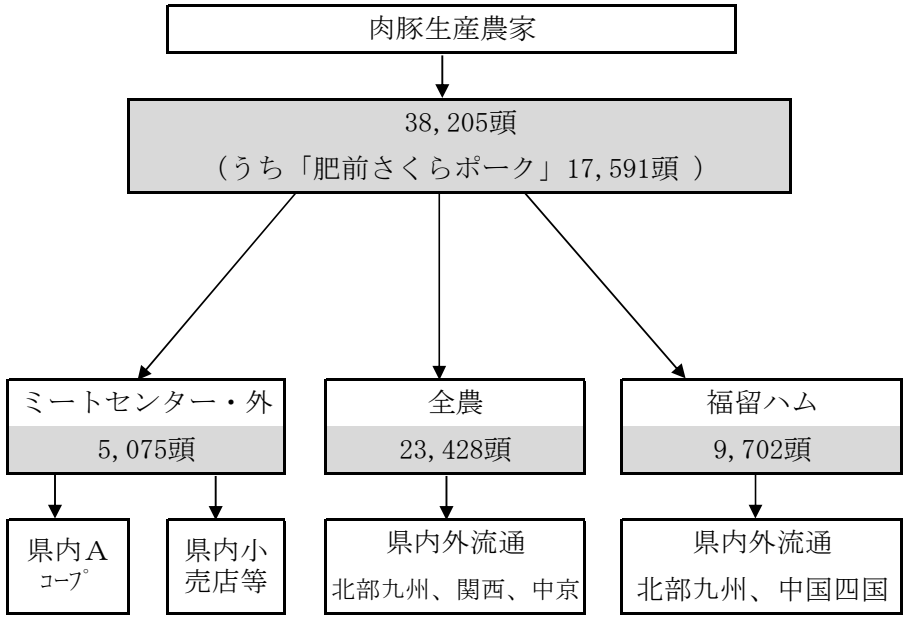
・　平成 6 年度から、県経済連が銘柄肉豚「肥前さくらポーク」として販売開始
・　令和 7 年度の出荷頭数は 17,591 頭で、ＪＡグループ佐賀の肉豚総出荷頭数（38,205 頭）の 46.0%を占める。
・　生産農家戸数は、ＪＡ系統農家 5 戸中 4 戸で、肥前さくらポークの生産者には出荷奨励金の支給が行われている（令和 8 年 6 月現在）。

○　肉豚流通図（平成21年）



（資料：農林水産省「畜産物流通統計」）
※平成22年以降公表なし

○ 肥前さくらポーク流通図（令和7年度）



（資料：ＪＡさが調査R8.6現在）

食料自給率・供給量の推移

区分(年度)		S40	S50	S60	H7	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7(概算)
肉類	自給率(%)	90	76	81	57	54	56	57	56	54	55	55	55	54	53	52	51	52	53	53	53	53	53	53
	1人1年当たり供給純食糧(kg)		17.9	22.9	28.5	28.5	28.5	28.6	29.1	29.6	30.0	30.1	30.2	30.7	31.6	32.7	33.3	33.4	33.5	34.0	34.0	33.9	34.3	34.5
うち牛肉	自給率(%)	95	81	72	39	43	44	43	42	40	42	41	42	40	38	36	36	35	36	36	39	40	42	42
	1人1年当たり供給純食糧(kg)		2.5	3.9	7.5	5.6	5.7	5.9	5.9	6.0	5.9	6.0	5.9	5.8	6.0	6.3	6.5	6.5	6.5	6.2	6.2	6.1	5.9	6.0
うち豚肉	自給率(%)	100	86	86	62	50	52	55	53	52	53	54	51	51	50	49	48	49	50	50	49	49	48	48
	1人1年当たり供給純食糧(kg)		7.3	9.3	10.3	12.1	11.7	11.5	11.7	11.9	11.8	11.8	11.9	12.2	12.4	12.8	12.8	12.8	12.9	13.2	13.1	13.1	13.2	13.2
うち鶏肉	自給率(%)	97	97	92	69	67	70	70	68	66	66	66	67	66	65	64	64	64	66	66	64	65	64	64
	1人1年当たり供給純食糧(kg)		5.3	8.4	10.1	10.5	10.8	11.0	11.3	11.4	12.0	12.0	12.2	12.6	13.0	13.4	13.7	13.9	13.9	14.4	14.6	14.4	14.9	15.0

区分(年度)		S40	S50	S60	H7	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7(概算)
鶏卵	自給率(%)	100	97	98	96	94	96	96	96	95	95	95	95	96	97	96	96	96	97	94	97	96	97	96
	1人1年当たり供給純食糧(kg)		13.7	14.5	17.2	16.6	16.8	16.6	16.5	16.6	16.7	16.8	16.7	16.9	16.9	17.4	17.4	17.6	17.2	17.2	17.1	16.3	16.4	16.4

区分(年度)		S40	S50	S60	H7	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7(概算)
牛乳・乳製品	自給率(%)	86	81	85	72	68	70	71	67	65	65	64	63	62	62	60	59	59	61	62	62	63	63	65
	1人1年当たり供給純食糧(kg)		53.6	70.6	91.2	91.8	86.3	84.8	86.4	88.6	89.5	89.0	89.6	91.1	91.3	93.4	95.2	95.5	92.4	94.4	93.9	90.1	90.7	88.2
うち飲用向け	自給率(%)		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	－	－
	1人1年当たり供給純食糧(kg)		28.1	35.2	40.6	36.7	34.2	32.7	31.8	31.6	31.1	30.8	30.4	30.8	31.1	31.1	31.2	31.2	31.6	31.5	31.1	30.3	30.3	30.1
うち乳製品向け	自給率(%)		60	69	49	47	51	53	48	45	46	45	43	43	42	40	39	40	41	43	43	44	－	－
	1人1年当たり供給純食糧(kg)		24.8	35.0	50.4	54.9	51.8	51.9	54.5	56.8	58.2	58.0	59.0	60.2	60.0	62.1	63.8	64.0	62.0	62.8	62.7	59.7	60.2	58.0

区分(年度)		S40	S50	S60	H7	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7(概算)
飼料	自給率(%)	55	34	27	26	25	26	25	25	26	26	26	27	28	27	26	25	25	25	26	26	27	26	24

資料:農林水産省「食料需給表」(令和8年8月7日公表)

(注)牛乳・乳製品の「うち飲用向け」及び「うち乳製品向け」の自給率については、令和6年度以降公表されていない。

家計調査（二人以上の世帯） 都道府県庁所在市別ランキング（令和5年～令和7年）　出典：総務省統計局「家計調査結果」

令和5年～令和7年平均の家計調査品目別データ（二人以上の世帯（1世帯当たり年間の支出金額及び購入数量））により、どのような品目でどの程度の地域差があるのかを明らかにするため、
都道府県庁所在市別ランキング（川崎市、相模原市、浜松市、堺市及び北九州市を含む）を集計されたもの。（肉類）

順位	肉　類 ----------<金　額>-		順位	生鮮肉 ----------<金　額>-		順位	牛　肉 ----------<金　額>-		順位	豚　肉 ----------<金　額>-		順位	鶏　肉 ----------<金　額>-		順位	合いびき肉 ----------<金　額>-		順位	他の生鮮肉 ----------<金　額>-	
	全国	**100,009**		**全国**	**81,245**		**全国**	**21,217**		**全国**	**34,262**		**全国**	**19,258**		**全国**	**3,280**		**全国**	**3,228**
1	京都市	118,299	1	京都市	100,292	1	京都市	36,081	1	新潟市	38,131	1	鹿児島市	23,534	1	長崎市	5,466	1	熊本市	6,935
2	堺市	117,361	2	堺市	98,617	2	和歌山市	34,171	2	東京都区部	38,126	2	福岡市	23,472	2	岡山市	5,171	2	札幌市	5,350
3	熊本市	113,324	3	熊本市	94,530	3	堺市	34,139	3	秋田市	37,909	3	熊本市	23,368	3	大分市	5,133	3	山形市	5,348
4	大阪市	112,426	4	神戸市	94,208	4	奈良市	32,581	4	川崎市	37,154	4	大分市	23,037	4	熊本市	5,106	4	堺市	4,369
5	広島市	112,295	5	大阪市	93,966	5	神戸市	32,212	5	さいたま市	37,069	5	京都市	22,282	5	高知市	4,748	5	大阪市	4,315
20	**佐賀市**	**103,869**	**19**	**佐賀市**	**86,327**	**15**	**佐賀市**	**25,990**	**36**	**佐賀市**	**32,213**	**15**	**佐賀市**	**20,651**	**21**	**佐賀市**	**4,074**	**19**	**佐賀市**	**3,399**

順位	生鮮肉 --------<数量：　g>-		順位	牛　肉 --------<数量：　g>-		順位	豚　肉 --------<数量：　g>-		順位	鶏　肉 --------<数量：　g>-		順位	合いびき肉 --------<数量：　g>-		順位	他の生鮮肉 --------<数量：　g>-	
	全国	**50,387**		**全国**	**5,594**		**全国**	**22,006**		**全国**	**18,417**		**全国**	**2,317**		**全国**	**1,592**	
1	熊本市	57,607	1	京都市	8,119	1	新潟市	27,169	1	熊本市	23,078	1	長崎市	3,628	1	熊本市	2,464	
2	大阪市	57,502	2	堺市	8,087	2	相模原市	24,853	2	大分市	22,879	2	岡山市	3,532	2	札幌市	2,365	
3	松江市	54,302	3	大阪市	8,028	3	札幌市	24,761	3	鹿児島市	22,432	3	熊本市	3,475	3	山形市	2,346	
4	北九州市	54,298	4	北九州市	7,961	4	福島市	24,393	4	松江市	21,856	4	大分市	3,356	4	青森市	2,253	
5	大分市	54,099	5	奈良市	7,828	5	秋田市	24,256	5	福岡市	21,601	5	高知市	3,284	5	広島市	2,213	
12	**佐賀市**	**52,877**	**15**	**佐賀市**	**6,971**	**28**	**佐賀市**	**20,887**	**11**	**佐賀市**	**20,337**	**20**	**佐賀市**	**2,741**	**20**	**佐賀市**	**1,719**	

順位	加工肉 ----------<金　額>-		順位	ハ　ム ----------<金　額>-		順位	ソーセージ ----------<金　額>-		順位	ベーコン ----------<金　額>-		順位	他の加工肉 ----------<金　額>-	
	全国	**18,764**		**全国**	**4,706**		**全国**	**8,004**		**全国**	**2,539**		**全国**	**3,515**
1	青森市	22,376	1	横浜市	5,650	1	青森市	9,659	1	山形市	3,412	1	那覇市	6,254
2	山形市	21,724	2	東京都区部	5,641	2	札幌市	8,913	2	福島市	3,133	2	札幌市	5,623
3	札幌市	21,212	3	京都市	5,456	3	浜松市	8,900	3	青森市	3,051	3	青森市	5,261
4	浜松市	20,344	4	相模原市	5,454	4	津市	8,867	4	富山市	3,017	4	山形市	5,145
5	川崎市	20,183	5	川崎市	5,385	5	山形市	8,772	5	新潟市	2,977	5	仙台市	4,536
37	**佐賀市**	**17,543**	**20**	**佐賀市**	**4,775**	**50**	**佐賀市**	**6,875**	**39**	**佐賀市**	**2,359**	**15**	**佐賀市**	**3,534**

順位	ハ　ム ---------<数量：　g>-		順位	ソーセージ ---------<数量：　g>-		順位	ベーコン ---------<数量：　g>-	
	全国	**2,267**		**全国**	**5,258**		**全国**	**1,350**
1	相模原市	2,840	1	青森市	6,277	1	山形市	1,946
2	岐阜市	2,656	2	鳥取市	5,985	2	福島市	1,836
3	堺市	2,611	3	津市	5,937	3	青森市	1,714
4	川崎市	2,558	4	新潟市	5,879	4	新潟市	1,696
5	千葉市	2,516	5	札幌市	5,858	5	相模原市	1,648
8	**佐賀市**	**2,449**	**49**	**佐賀市**	**4,427**	**30**	**佐賀市**	**1,317**

家計調査（二人以上の世帯） 都道府県庁所在市別ランキング（令和5年～令和7年）　出典：総務省統計局「家計調査結果」

令和5年～令和7年平均の家計調査品目別データ（二人以上の世帯（1世帯当たり年間の支出金額及び購入数量））により、どのような品目でどの程度の地域差があるのかを明らかにするため、都道府県庁所在市別ランキング（川崎市、相模原市、浜松市、堺市及び北九州市を含む）を集計されたもの。（乳卵類）

順位	乳卵類 ----------〈金　額〉-		順位	牛　乳 ----------〈金　額〉-		順位	乳製品 ----------〈金　額〉-		順位	ヨーグルト ----------〈金　額〉-		順位	バター ----------〈金　額〉-		順位	チーズ ----------〈金　額〉-		順位	卵 ----------〈金　額〉-	
	全国	**53,146**		**全国**	**15,836**		**全国**	**24,283**		**全国**	**14,105**		**全国**	**1,368**		**全国**	**7,077**		**全国**	**13,027**
1	さいたま市	58,813	1	奈良市	19,422	1	東京都区部	29,613	1	水戸市	17,665	1	京都市	1,976	1	東京都区部	9,446	1	高知市	15,431
2	奈良市	58,722	2	京都市	18,947	2	さいたま市	29,226	2	さいたま市	17,175	2	川崎市	1,810	2	川崎市	8,965	2	鳥取市	15,262
3	東京都区部	58,506	3	鳥取市	18,146	3	川崎市	28,707	3	山形市	17,109	3	奈良市	1,805	3	横浜市	8,772	3	岐阜市	14,829
4	名古屋市	58,368	4	名古屋市	18,103	4	水戸市	28,338	4	福島市	16,160	4	東京都区部	1,800	4	さいたま市	8,576	4	福島市	14,644
5	浜松市	57,274	5	神戸市	18,063	5	山形市	27,785	5	浜松市	16,041	5	神戸市	1,799	5	長野市	8,496	5	熊本市	14,633
50	**佐賀市**	**46,385**	**49**	**佐賀市**	**13,547**	**46**	**佐賀市**	**20,232**	**41**	**佐賀市**	**12,276**	**52**	**佐賀市**	**944**	**46**	**佐賀市**	**5,703**	**37**	**佐賀市**	**12,606**

順位	牛　乳 ------〈数量：ﾘｯﾄﾙ〉-	
	全国	**68.33**
1	奈良市	82.73
2	京都市	80.39
3	名古屋市	78.24
4	神戸市	76.99
5	大津市	76.59
49	**佐賀市**	**56.50**

順位	バター --------〈数量：　g〉-		順位	チーズ --------〈数量：　g〉-		順位	卵 --------〈数量：　g〉-	
	全国	**571**		**全国**	**3,434**		**全国**	**30,572**
1	京都市	842	1	川崎市	4,476	1	鳥取市	36,349
2	川崎市	785	2	相模原市	4,349	2	新潟市	34,919
3	神戸市	784	3	長野市	4,187	3	岐阜市	34,727
4	奈良市	769	4	東京都区部	4,166	4	松江市	34,034
5	東京都区部	744	5	横浜市	4,084	5	堺市	33,771
50	**佐賀市**	**423**	**46**	**佐賀市**	**2,710**	**44**	**佐賀市**	**28,463**

Ⅳ　参考資料

配 合 飼 料 価 格 の 推 移 について(佐賀県)

作成:令和８年６月19日現在

○全農は令和８年７～９月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和８年４～６月期に対し、全国全畜種総平均トン当り約3,700円値上げすることを決定しました。

○とうもろこしのシカゴ定期は、中東情勢の悪化による原油価格の高騰や４月中旬の米国中西部の天候不順による作付遅延懸念などから５月上旬には480セント/ブッシェル前後まで上昇しました。その後、米国産地の天候が改善し、良好な生育が期待されていることなどから下落し、現在は420セント/ブッシェル前後で推移しています。

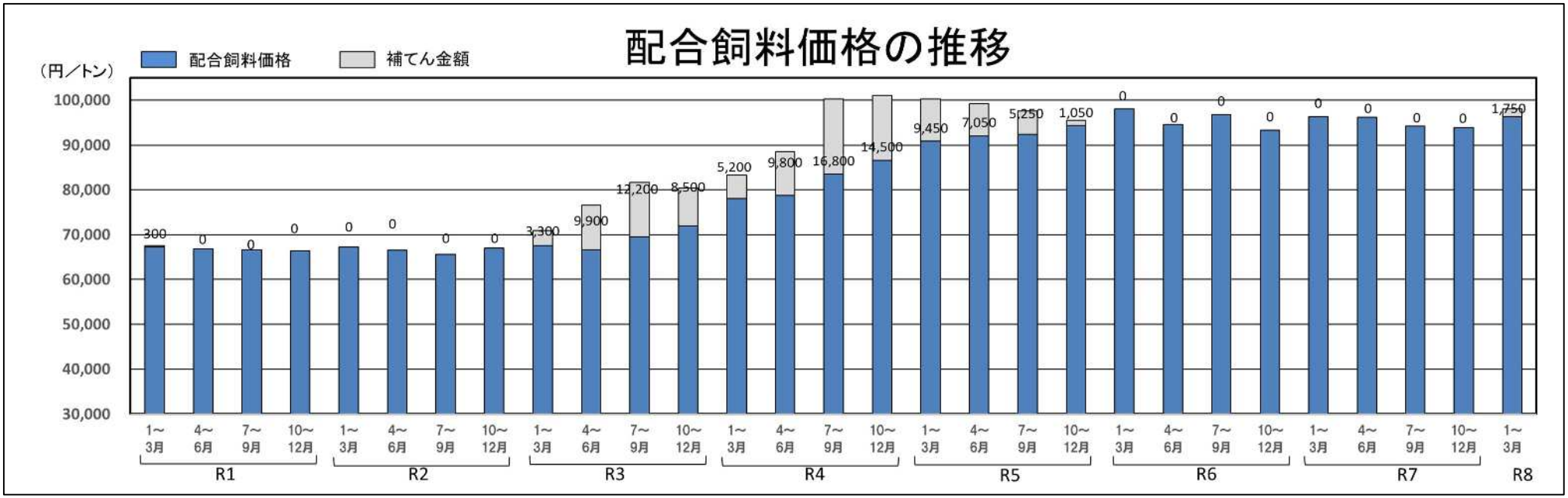
○大豆粕のシカゴ定期は、中東情勢の悪化により原油価格が高騰していることや大豆粕の米国内および輸出需要が旺盛であることなどから４月には360ドル/トン台まで上昇しました。現在は米国産大豆の良好な生育が期待されていることなどから下落し、330ドル/トン台で推移しています。

○米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、原油価格の高騰により燃料代が上昇したことや、石油関連製品の調達先を米国に切り替える動きが世界的に進んだ影響で、パナマ運河で長期滞船が発生し船腹需給が引き締まったことなどから上昇し、現在は70ドル/トン台で推移しています。

○外国為替は、日本の当局による為替介入により５月上旬には一時的に155円台まで円高が進んだものの、米国のインフレ懸念が高まり日米金利差の縮小見通しが後退していることなどから円安が進み、現在は160円前後で推移しています。

（１ブッシェル＝２５．４kg）（ＪＡ全農ニュースより）

	R4年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R5年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R6年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R7年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R8年 1～3月
配合飼料価格	83,302	88,599	100,270	101,092	100,276	99,135	97,623	95,441	98,074	94,569	96,786	93,343	96,278	96,246	94,282	**93,932**	**98,061**
上下幅	2,879	5,297	11,671	822	△ 816	△ 1,141	△ 1,512	△ 2,182	2,633	△ 3,505	2,217	△ 3,443	2,935	△ 32	△ 1,964	△ 350	4,129
農家負担額（推計）	78,102	78,799	83,470	86,592	90,826	92,085	92,373	94,391	98,074	94,569	96,786	93,343	96,278	96,246	94,282	93,932	96,311
上下幅	6,179	697	4,671	3,122	4,234	1,259	288	2,018	3,683	△ 3,505	2,217	△ 3,443	2,935	△ 32	△ 1,964	△ 350	2,379
補てん額	5,200	9,800	16,800	14,500	9,450	7,050	5,250	1,050	0	0	0	0	0	0	0	0	1,750



○高病原性鳥インフルエンザとは

１．原因（病原体）・・・　鳥インフルエンザウイルスのうち高病原性のもの
（*Orthomyxoviridae Influenza virus A*）

２．感受性動物・・・　鶏、あひる、うずら、エミュー、だちょう、七面鳥等

３．症　　状・・・　神経症状（首曲がり、沈うつ等）、呼吸器症状、消化器症状（下痢、食欲減退等）、高い死亡率が主な症状

４．伝播様式・・・　飛沫感染、糞口感染

５．発生状況

（１）国　内

2003 年シーズン：3 県 4 事例　約 27 万羽　殺処分
山口県、大分県、京都府

2005 年シーズン：2 県 41 事例（低病原性）約 578 万羽　殺処分
茨城県、埼玉県

2006 年シーズン：2 県 4 事例　約 16 万羽　殺処分
宮崎県、岡山県

2009 年シーズン：1 県 7 事例（低病原性）約 160 万羽　殺処分
愛知県

2010 年シーズン：9 県 24 事例　約 183 万羽　殺処分
島根県、愛知県、宮崎県、鹿児島県、三重県、奈良県、和歌山県、大分県、千葉県

2014 年シーズン：5 県 6 事例　約 46 万羽　殺処分
熊本県、宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県

2016 年シーズン：9 道県 12 事例　約 166.7 万羽　殺処分
青森県、新潟県、北海道、宮崎県、熊本県、岐阜県、佐賀県、宮城県、千葉県

2017 年シーズン：1 県 1 事例　約 9.1 万羽　殺処分
香川県

2020 年シーズン：18 県 52 事例　約 987 万羽　殺処分
香川県、福岡県、兵庫県、宮崎県、奈良県、広島県、大分県、和歌山県、岡山県、滋賀県、高知県、徳島県、千葉県、岐阜県、鹿児島県、富山県、茨城県、栃木県

2021 年シーズン：12 道県 25 事例　約 189 万羽　殺処分
秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県、岩手県、宮城県、北海道

2022 年シーズン：26 道県 84 事例　約 1,771 万羽　殺処分
岡山県、北海道、香川県、茨城県、和歌山県、兵庫県、鹿児島県、新潟県、宮崎県、青森県、宮城県、千葉県、福島県、鳥取県、愛知県、佐賀県、山形県、広島県、沖縄県、埼玉県、福岡県、長崎県、群馬県、大分県、滋賀県、岩手県

2023 年シーズン：10 県 11 事例　約 85.6 万羽　殺処分
佐賀県、茨城県、埼玉県、鹿児島県、群馬県、岐阜県、山口県、香川県、広島県、千葉県

2024 年シーズン：14 道県 51 事例　約 932 万羽　殺処分
北海道、千葉県、新潟県、島根県、香川県、宮城県、岐阜県、鹿児島県、埼玉県、宮崎県、愛媛県、茨城県、愛知県、岩手県

2025 年シーズン：16 道府県 24 事例　約 576 万羽　殺処分
北海道、新潟県、宮崎県、鳥取県、兵庫県、岡山県、京都府、茨城県、埼玉県、香川県、三重県、岐阜県、千葉県、岩手県、宮城県、青森県

（２）外　国　　アジア、欧州、アフリカ等
（東南アジア、中東及び中国では、人への感染の報告あり）

７．診断法
（１）抗原検査（簡易ウイルス検査、遺伝子検査、ウイルス分離）
（２）抗体検査（ELISA、寒天ゲル内沈降反応）

８．予防法・・・　飼養衛生管理基準の遵守
鶏用のワクチンは一部の国で限定的に使用

９．治療法
（１）なし
（２）発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う

○ 口蹄疫とは

1．原因（病原体）・・・　口蹄疫ウイルス（Foot-and-mouth disease virus）

2．感 受 性 動 物・・・　偶蹄類の動物
（牛、水牛、めん羊、山羊、豚、鹿、いのしし）

3．症　　状・・・　突然 40～41℃の発熱、元気消失に陥ると同時に多量の流涎（よだれ）がみられ、口、蹄、乳頭等に水胞を形成し、食欲不振、跛行（足をひきずる）を呈する。乳用牛の場合には泌乳量が低下し、肉用家畜の場合は肥育効率が低下する等家畜の経済能力が著しく低下する。人に感染することはない。

4．潜 伏 期 間・・・　2～14 日

5．伝 播 様 式・・・　空気感染等

6．発 生 状 況
（1）国内
1908 年（明治 41 年）東京、神奈川、兵庫、新潟　計 522 頭
2000 年（平成 12 年）3、4 月　宮崎県 2 戸 20 頭（疑似患畜 35 頭）
5 月　北海道 1 戸 2 頭（疑似患畜 705 頭）
2010 年（平成 22 年）4 月～7 月　宮崎県 292 戸　211,608 頭

（2）外国　アジア（中国・韓国・モンゴル等）、アフリカ、欧州（一部）、他

7．診 断 方 法
（1）抗体検査
（2）抗原検査（水胞材料からのウイルス分離、抗原検出 ELISA 法、抗原検出キット、PCR 検査）

8．予 防 方 法
不活化ワクチンが用いられているが、発症家畜の淘汰による清浄化の推進が中心となりつつある。
我が国では厳重な検疫を実施（発生国からの畜産物等の輸入禁止措置等）している。

9．治 療 方 法
（1）なし。
（2）発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。

○ 豚熱（ＣＳＦ：Classical swine fever）とは

1．原因（病原体）・・・ＣＳＦウイルス（Classical swine fever virus）

2．感 受 性 動 物・・・豚、イノシシ

3．症　　状・・・ウイルスの株や豚の月齢・状態により、極めて多様な病原性を示す。特定症状に挙げられているものには、紫斑、高熱、結膜炎、後駆麻痺、発育不良、血液凝固不全、流死産、白血球数減少、死亡頭数増加等がある。

4．潜 伏 期 間・・・2～6 日（急性型）

5．伝 播 様 式・・・感染動物との直接接触（経口・経鼻）、汚染された器具、人との接触による。豚肉製品中に長期間存在しているので、ウイルスに汚染された厨芥、残飯が伝播源として重要。

6．発 生 状 況
（1）国内
2018 年（平成 30 年）9 月、岐阜県で 26 年ぶりに発生。
令和 8 年 8 月現在、飼養豚で 26 都県、野生イノシシでは 43 都府県で発生。
（2）外国
北米、オーストラリア、スウェーデンなどでは清浄化。

7．診 断 方 法
（1）抗体検査
（2）扁桃，脾臓等を用いた抗原検査（ウイルス分離検査、ＰＣＲ検査及び蛍光抗体法）

8．予 防 方 法
飼養衛生管理基準の遵守。ただし農林水産大臣が推奨する地域では、知事の命令でワクチンが使用され、令和 7 年 9 月現在で北海道を除く都府県で飼養豚にワクチンを接種している。野生イノシシでは 43 都府県で経口ワクチン散布が行われている。

9．治 療 方 法
（1）なし
（2）飼養豚・イノシシで発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。（令和 8 年 5 月 19 日、改正家伝法により選択的殺処分の導入）

○　アフリカ豚熱（ＡＳＦ：African swine fever）とは

１．原因（病原体）・・・ＡＳＦウイルス（African swine fever virus）

２．感 受 性 動 物・・・豚、イノシシ

３．症　　状・・・突然死（緊急性）や急性から慢性の症状、無症状等の幅広い病態を示す。症状は豚熱に酷似し、紫斑、高熱、結膜炎、後駆麻痺、流死産、白血球数減少、死亡頭数増加等がある。甚急性型の死亡率は100%に達する。

４．潜 伏 期 間・・・5～21日（経口感染および接触感染）

５．伝 播 様 式・・・感染動物との直接接触（経口・経鼻）、汚染された器具、人との接触による。豚肉製品中に長期間存在しているので、ウイルスに汚染された厨芥、残飯が伝播源として重要。豚熱ウイルスよりも環境残存性が高い。

６．発 生 状 況
（１）国内　未発生

（２）外国　アフリカ、欧州、日本を除くアジア全域で発生

７．診 断 方 法
（１）抗体検査
（２）扁桃，脾臓等を用いた抗原検査（ウイルス分離検査、ＰＣＲ検査及び蛍光抗体法）

８．予 防 方 法
有効なワクチン等はない。
飼養衛生管理基準の遵守。

９．治 療 方 法
（１）なし
（２）飼養豚・イノシシで発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。

○　ヨーネ病とは

１．原因（病原体）・・・ヨーネ菌
（*Mycobacterium avium* subspecies paratuberculosis）

２．感 受 性 動 物・・・牛、水牛、鹿、めん羊、山羊

３．症　　状・・・多くは不顕性感染だが、分娩１ヶ月以内に発症することが多い。
1～2 週間を周期とする間欠性の下痢、急激な削痩、泌乳停止。下痢は難治性で、大部分では削痩し、衰弱死する。

４．伝 播 様 式・・・主に感染した動物の糞便に汚染された乳汁、飼料又は飲水を介し、経口感染する。重症例では、胎盤感染も成立する。

５．発 生 状 況
（１）国内
1930 年に初めて、輸入牛で確認されたが、1980 年以降から、徐々に国産牛での発生が増加している。
（２）外国
北米、ヨーロッパ諸国、オーストラリアでも発生し、重要損耗疾病して注目されている。

６．診 断 方 法
（１）抗体検査や遺伝子検査（リアルタイムＰＣＲ法）
（２）免疫学的検査では、遅延型過敏反応を検出するヨーニン反応がある。
（３）糞便から直接菌を確認する方法（抗酸菌染色）と、菌分離（糞便、腸管、腸間膜リンパ節）

７．予 防 方 法
有効なワクチン等はない。
感染牛の早期摘発・淘汰及び汚染物品の消毒。

８．治 療 方 法
（１）なし
（２）発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。

○　牛伝染性リンパ腫（旧：牛白血病）とは

1．原因（病原体）・・・牛伝染性リンパ腫ウイルス（Bovine leukemia virus）

2．感 受 性 動 物・・・牛、水牛

3．症　　状・・・地方病型、子牛型、胸腺型、皮膚型があり、地方病型が最も多い。不顕性感染が多く、発症した場合は削痩、元気消失、食欲不振、眼球突出、下痢等や体表リンパ節の腫大等がみられる。子牛型、胸腺型（胸腺の腫大）、皮膚型（皮膚の限局性腫瘤）は散発している。

4．潜 伏 期 間・・・数ヶ月から数年

5．伝 播 様 式・・・水平伝播と垂直伝播が主で、水平伝播には、吸血昆虫によるもののほか、除角器、削蹄鎌、注射針又は直腸検査用手袋等の連続使用がある。
垂直感染には、子宮内（産道）感染がある。

6．発 生 状 況
（１）国内
1927 年に初めて発生して以来、全国にまん延している。
（２）外国
北米、南米大陸、オーストラリア、アジア、ヨーロッパ、ロシアなど多くの国に分布している。

7．診断方法
（１）抗体検査
（２）遺伝子学的検査
（３）病理組織学的検査

8．予 防 方 法
有効なワクチン等はない。
感染牛の早期摘発・淘汰と非感染農場からの導入。

9．治 療 方 法
（１）なし
（２）発生した場合には、発生場所の消毒、感染牛の淘汰などが望ましい。